



アクションプラン2019

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします



はじめに

新・経営ビジョン(2013～2022)、中期経営計画(2018～2022)の考え方に沿った今年度の具体的な計画が、ここで紹介するアクションプラン 2019 です。

アクションプラン 2019 では、2018 年度を取組を踏まえたうえで、引き続き安全・安定輸送を最優先に取り組みとともに、下記の 3 つの事項について重点的に取り組んでまいります。

1. 地域連携の推進

「もっと身近に I G R」を合言葉に、これまで以上に沿線地域の関係機関、関係団体や沿線の皆様との連携を深め、沿線の魅力向上や活性化の取組を通じ、地域にとって将来にわたり「かけがえのない鉄道」となるよう取り組む。

2. 安定的な財務運営

昭和 40 年代の東北本線複線電化から 50 年を経過し、老朽化した鉄道施設の取替のほか、「ぎんが指令」の更新やデジタル無線化への対応が見込まれることから、これらに要する建設投資、修繕経費ほか、将来にわたる健全で安定的な経営を維持するため、中長期的な視点に立ち、安定的な財務運営に取り組む。

3. 人材育成

開業 15 年を経過し、社員構成は J R 出向社員からプロパー社員へ移行が急速に進み、プロパー社員が中核となって会社を支える時期を迎えつつある。安全・安定輸送の堅持をはじめ鉄道事業の継続を担うプロパー社員の育成が急務となっている。これまでの研修の強化に加え、将来の I G R を担う社員像を明確にし、人材育成計画を策定のうえ、継続的に人材育成に取り組む。

四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組を確実なものにしてまいります。

(この要約版は、主なものを抜粋したものです。なお、重点項目は一部簡略化して記載しております。)

「安全・安心」を第一に、地域の旅客輸送・日本の物流の担い手として より信頼される鉄道であり続けます

◆ 社員一人ひとりが安全を最優先に業務に取り組む。

【さらなる安全・安心への取組】

重点項目	取組内容
○防災マニュアルの浸透、事業継続計画の充実、避難誘導等の防災訓練の実施など、自然災害への対応力を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災業務実施計画の見直し ・ 防災の日訓練－異常時の本社機能強化
○脱線復旧訓練・実車運転訓練などの各種訓練を関連機関と連携して実施するほか、事故・輸送障害への対応力を強化するとともに、万一事故が発生した場合、被害者の救護をはじめ適切な支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 護身術訓練の実施【新規】 ・ 実車運転訓練会の開催 ・ J R貨物総合脱線復旧訓練への参加 ・ 踏切事故防止運動等の実施

◆ 鉄道施設の信頼性を確保する。

【線路・電路設備の品質の維持・向上】

○計画的な設備更新により修繕費を削減するとともに、設備品質の維持・向上を図り、信頼性を確保します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な鉄道設備の修繕及び更新 ・ 不要設備の撤去によるランニングコストの削減【新規】
○技術勉強会や各種教育機関への計画的な派遣訓練を継続的に実施することで、プロパー社員の技術力を確立し、これまで培ってきた鉄道保守技術の継承を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軌道・土木・電力・信通の系統毎に定期的な勉強会を開催

【車両・輸送品質の向上】

○車両検修、清掃の円滑化等コスト削減につながる作業環境の整備を図るほか、車両の延命化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検修業務の円滑化を目的とした訓練会の実施 ・ 異常時対応に備えた災害予備品の購入
○将来の車両更新に備えて、車両製造・導入動向を調査するとともに、より効率的な車両運用のあり方や輸送需要や異常時対応をも考慮した必要車両数について、他会社を含めた関係機関と検討を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両調達価格の動向等、最新情報の入手 ・ 関係他社の動向を注視（J R東日本・青い森鉄道） ・ 車両更新に向けた情報収集及び分析【新規】

実車運転訓練会



合同訓練会



設備系統勉強会



防災の日訓練（対策本部設置）

誰もが利用したくなるような、お客さまにやさしい、魅力的な鉄道をめざします

◆ お客さまの視点に立ったサービスを提供する。

【顧客ニーズに沿ったサービスの提供等】

重点項目	取組内容
○“お客さまの声”をはじめとしたサービス向上に資する情報の収集と分析を進めるとともに、お客さまに気持ちよくご利用いただけるサービス知識・技術の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さまの声の収集分析及び共有化 ・社員からの意見の募集
○地域の立地条件に基づいた市場調査を実施し、その結果を鉄道ほか関連事業に反映させ、利便性の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降調査分析に基づく運営改善及び利用促進策の検討【新規】

【地域特性に応じた発信力の強化】

○沿線市町や地域の皆様と連携しながら、駅を中心とした地域活性化に取り組むとともに、ニーズに沿った企画や地域に関する情報を発信し、地域に根差した会社運営を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線市町の行政や地域の方々との情報共有のほか、企画検討及び情報発信 ・SNSによる魅力情報発信の拡充
---	--

◆ お客さまにとって便利で利用しやすい鉄道をめざす。

【駅や列車の利便性向上】

○“お客さまの声”や現場の提言を反映し、限られた資源の中でより良いダイヤを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者拡大を目標とした次期ダイヤ改正に向けての調査を実施【新規】 ※定期利用者の実態調査及び分析 ※学校や企業等に対する調査
○モーダルシフト化の社会情勢を踏まえ、貨客混載輸送の導入に向けて先行事例や実施に当たっての条件等を検証し、具体的な検討を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・貨客混載輸送の導入【新規】
○サイクルトレインについて、これまでの調査研究結果を踏まえ、導入する場合の条件等を整理し、具体的な検討を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルトレインの導入【新規】

【バリアフリー環境の整備】

○バリアフリーに関する知識・技術の向上に取り組み、お客さまにとって利用しやすい鉄道を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアステップ段差の明確化等について、計画的な取組実施
--	---

社内サービス推進委員会における
お客さまの声共有



貨客混載輸送(イメージ)



営業部 Facebook



サイクルトレイン(イメージ)

地域のかげがえのない足として、将来にわたり健全で安定的な経営に努めます

◆ 地域鉄道を担う“民間”会社としての社会的な責務を果たす。

【黒字経営の継続】

重点項目	取組内容
○徹底した経費節減に努め、費用と収入の均衡を図ります。特に、増加が見込まれる減価償却費の増等については営業費全体の圧縮により、黒字化が達成できるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・中期収支計画の随時更新 ・予算管理の精度の向上及び評価の実施 ・コストの見える化・分析【新規】
○鉄道旅客事業及び関連事業については、増収増益に繋がる取組を強化します。また、お客さまの意向調査や市場調査を行い、ニーズに応じたサービスを弾力的に行う等、鉄道旅客事業・関連事業を戦略的かつ強力に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・関連事業における戦略的な取組【新規】 ※事業の改善及びスクラップ&ビルドの視点に立った検討・実施 ※地域連携の取組の推進
○貨物調整金制度の維持継続、補助金制度の創設等、鉄道事業の存続に必要な支援等について、並行在来線鉄道事業者協議会等による要請等を行い、十分な理解を得よう活動します。	<ul style="list-style-type: none"> ・並行在来線鉄道事業者協議会における会長事業者としての先導的役割の遂行

【“まちづくりの装置”としての鉄道】

○駅舎の改築や新駅の設置など、住民の利便性向上と地域の発展に大きく資する事業について、引続き沿線市町・県とともに検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅の利用状況及び周辺地域の状況を踏まえ、新駅設置または駅舎改築の必要性について検討 ・関係市町等との意見交換の実施
○未利用地や未利用スペースの有効活用により収益の増加を図るとともに、地域のまちづくりに貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用地のカルテ作成【新規】 ・駐車場等への有効活用を検討、開始【新規】
○道路と公共交通双方の利便性向上のため、地域の交通計画を踏まえ、マイカーから公共交通機関へのシフトを図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交通計画を十分把握のうえ、マイカーからの転換を促進【新規】 ※パーク&ライドの具体的推進 ※関係市町との意見交換の実施
○地域の商工農業者や観光関係者と連携し、鉄道及び関連事業の利用促進に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携方針の策定【新規】 ※行政・関連団体・パートナーズ会等との連携

◆ 徹底した効率経営を追求するとともに関連事業を展開し、健全な経営を維持する。

【長期的に安定したキャッシュフローの確立】

○設備投資に要する資金の調達が必要となることから、長期的な視点でキャッシュフローの健全化を進めるため関係機関と検討を進めます。今後、施設更新のピークを迎えることから、優先順位を勘案し、計画的に施設の更新を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・資金繰り及びキャッシュフローシステムによる財務運営の見える化【新規】 ※キャッシュフローの評価基準の設定
---	--

【鉄道資産を活用した関連事業の取組】

○平成 28 年度に立ち上げた県外を中心としたファンクラブ会員を県内に拡大するとともに、クラブ会員と連携し誘客に結び付ける等、ファンクラブ活動の充実強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線の企業・団体・個人等との連携し、(仮称)パートナーズ会を設置【新規】 ※地域連携のもと、相互にメリットのある関係を築き、地域の活性化に寄与
--	---

【人材の育成と適正な人員管理】

重点項目	取組内容
○採用活動を積極的に行い、優秀な人材を確保するとともに、外部研修期間の活用や他社への派遣研修等社員研修の充実を図り、社員一人ひとりの知識技能向上に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ U・I ターン採用の取組の推進【新規】 ・ 学校訪問等、採用活動の強化【新規】 ・ 企業派遣研修の強化【新規】 ・ 社員の知識技能向上を目的とした各研修の実施
○今後、必要とされる人材の育成に向けて、育成の方向性等を明確にするとともに、働き方の見直しや業務改善等による時間外労働の削減と社員のモチベーションの向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成方針及び人材育成計画の策定【新規】 ・ 働き方改革の推進

【業務改善の推進】

○プロジェクトチームとしてスタートした業務改善の取組を全社的な取組に発展させ、業務改善意識の浸透を図るとともに、推進体制を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務改善取組の推進 ※業務改善マインドの啓発・定着化 ※業務の効率化(システム化の推進) ※業務の適正化(業務マニュアルの整備推進)
○不祥事の再発防止のため、不断にチェック体制を点検するとともに、業務改善等を通じて信頼回復に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸規程、内規等の運用状況総点検及び改善 ・ 安全総点検の点検項目の適正な設定

沿線市町と連携イベント開催



三陸鉄道との連携観光ツアー—
震災学習列車



並行在来線鉄道事業者協議会
要請活動に向けた研究会



パーク＆ライド

I GR 銀河ファンクラブマガジン



企業研修報告会



U・I ターン就職イベント



社内業務改善発表会